

### (第三篇)

文字さんたちには人間と同じように性格もあれば、文化や習慣もある。－中略－

ある夏の夜、いつものように文字さんたちがあつまって宴会を開いていた時のことだ。困った“あ”さんは、いつものお決まりの自慢話をはじめたんだ。「俺が一番えらい。あいうえお順でも、アルファベット順でも“あ”という音を表す文字が一番はじめるからだ」それをきいた“の”さんは、“あ”さんにいらだってこう言い返した。「“あ”さんは確かにあいうえお順では一番始めにくるかもしれないけど、使われる回数から言えば、私が一番なのよ。それって、私が一番えらいってことにならないかしら」そこに“を”さんが「二人とも仲よくしよう」とけんかを止めに入ると、今度は“ぬ”さんが「ちょっと待ってよ」と前に出てきて反論しはじめた。「それだったら、私が一番じゃない？だって、私は一番使われる回数が少ないのよ。ものに高い価値がつくのは世界共通じゃないかしら」「いや、あの、みんな仲よくしよう……」「それだったら……」と、今度は“ら”さんが少しおどけて立ち上がった。「僕はどうかあ。最近、若い人たちが使ってくれないからな。本当は食べられるなのに、ら抜き言葉で有名になっ

ちゃったよ」 「だから、みんな仲よくしようよ！」－中略－  
いよいよこれ以上とき、誰かが大きな声でこう叫んだんだ。「誰が  
一番えらいかはわからないけど、誰が一番えらくないかは知って  
いるぞ。それは小さい“っ”さ。だって、彼は音を出さないから  
な。そんなの文字でもなんでもないさ」

[摘自 112 年専門職業及技術人員普通考試、領隊人員考試試題]